学校番号	302

平成 31 年度　音楽科

教科	音楽	科目	声楽Ⅰ（合唱）	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校生の音楽１（教育芸術社出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・合唱は音楽科全学年合同で行う授業です。仲間とともに協力し、チームとして演奏を完成させるために必要な協調性を培うとともに、曲種に応じた発声技術、和声感、実践的読譜力を向上させ音楽作りの方法などについて学びます。
・声を合わせ美しい合唱音楽をするためには特に次のことを重点的に学びます。
　① 確かなソルフェージュ能力に基づく美しいハーモニー作りをします。
　② 美しい合唱の響きを作るための声楽技術を身につけます。（専攻実技または副科実技の応用）
　③ 楽曲（楽曲の作られた背景や歴史、歌詞の内容と音楽との関係）を音楽の諸要素などの根拠を持って分析できるようにします。（音楽理論・音楽史）
副科や専攻授業で学んだことの応用力が必要です。一人の力でできないことも、チームとして仲間と支え合い、意見交換をしながら互いの感性を高めあい、聴く人を感動させる合唱作りをします。
・地域の小学校や病院、大阪府のイベントなどにおいて実践的に発表する機会を持ち、社会における音楽の役割について実践を通して学ぶ機会とします。

2　学習の到達目標

声楽に関する専門的な学習を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習を行い、演奏発表の場では演奏を共有し、互いに評価しあったりする活動に積極的に取り組もうとする。	音楽を形作っている要素や声の特性を知覚し、それらの動きを感受しながら、曲想に応じた音色・フレージングに着目した音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技術を身につけ、創造的に表している。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値を判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わい、言葉によって言い表すことができる。
評価方法	授業態度	授業態度 演奏発表（実技テスト） 小編成アンサンブル形態での相互演奏発表（実技テスト）	授業態度 演奏発表（実技テスト） 小編成アンサンブル形態での相互演奏発表（実技テスト）	授業態度 録音会と録音した自らの演奏を鑑賞することによる楽曲・演奏の自己分析

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

＊曲目については、生徒の男女バランスなど実態に合わせて変更する場合があります。

4　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">時期</th><th rowspan="2">単元名</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="4">主な評価の観点</th><th rowspan="2">単元(題材)の
評価規準</th><th rowspan="2">評価方法</th></tr>
<tr><th>関心・意欲・態度</th><th>創意・工夫</th><th>技能</th><th>鑑賞の能力</th></tr>
<tr><td>前期</td><td>美しいハーモニーを奏でる　音色・響の違いを感じ取ろう
～関西フィル定期公演(大島作品)、鳳新交流でコンサート～</td><td>美しいハーモニーのために
◆基礎練習
ハミングで響きの位置を共有
行きの流れと響の関係
ハミングから母音へ
5つの母音を同じ響気で
・ユニゾンで歌う
人と合わせるということ
息を合わせる
音楽の要素ごとに合わせる
・5度、8度のハーモニー
・ビブラートとノンビブラートの
違い
夕陽サウンドの育成
・ハーモニーエチュード、カノン
・生徒の実態に合わせた合唱曲
・アカペラ声楽曲</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td rowspan="2">a:毎時間の授業において主体的に歌うなどの諸活動を他者と協調して積極的に行うことができる。
b:楽曲の作られた時代や曲の様式を理解し、歌詞の内容や時代背景に相応しい曲想で、発声やフレージング、声の音色などの表現を工夫して歌うことができる。
c: ➢音高、リズムなど楽譜に書かれたことを正しく読み取り歌う事ができる。
➢正しいイタリア語や日本語・ドイツ語・英語・ラテン語の発音で歌うことができる。
➢曲種や詩の内容に応じた発声や表現方法で他者と協調した美しい合唱として歌う事ができる。
d:発表の場で自分の録画・録音を聴いた時、また他の演奏者の演奏を聴いた時、音楽の要素ごとに分析して感想を述べ、よりよい表現のための方法を言葉によって表すことができる。

＊実技試験は小編成アンサンブルの形で必要に応じ年に最低２回は行うこととする。</td><td>授業観察

ワークシート
(振り返りと分析)

小編成アンサンブルとして演奏聴取
(実技試験)</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>定期演奏会での成果発表会と様々な時代の合唱曲を学ぶ</td><td>人を感動させる合唱のために
◆曲の歴史的背景や詩の内容を探る＝作曲家の意図する音楽と楽譜に置ける音楽の諸要素との密接な関係を探る。
◆音響効果の良いホールで演奏会を行うことにより、より音楽の仕事の最前線であるホールの響きを体験できる。
◆曲種に応じた発声
音楽の造られた時代や様式に寄って歌い方が異なることを鑑賞やワークショップを通して知り、発声の違いと良さを味わって演奏する
◆様々な　時代の作品を演奏することで、曲種に応じた発声があることを学び、ルネサンスから近現代の作品までのアプローチを学ぶ。
＊生徒の実態に合わせた選曲を行う。</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>授業観察

演奏聴取
(実技試験)

ワークシート</td></tr>
</table>